

日本語教育の立場から垣間見たラ行音撥音化

—日本語学習者の視点から—

Why Does the Japanese R-sound Change to /N/:
From the Perspective of a Foreigner

劉 志偉*

LIU Zhiwei

本稿は、実生活では日々耳にするものの、日本語教材には取り上げられることがほとんどなかった言語現象であるラ行音撥音に注目して考察を行った。音声学や音韻論における専門用語を可能限り避け、日本語学習者にとって分かりやすい学習ルールを提案することが、その目的である。具体的には、まず、マスメディアを中心に集めた用例をもって、ラ行音撥音の全体像を明らかにした。続いて、筆者自身が来日以来、記録してきた学習メモに基づいて、ラ行音撥音の中で、学習者にとっての難点と考えられる箇所を示した。そして、以上の点を踏まえた上で、ラ行音に由来する撥音を体系的に理解する学習ルールを提案した。また、近畿方言を含む「標準語」を学習する際に、上記のルールが援用できる可能性についても言及した。日本語学と日本語教育が「別居」状態にあると言われる中、日本語学習者の視点を重視し、いわゆる標準語に限定せず、方言を視野に入れて学習する必要性、また、通時的観点を部分的に取り入れることがより効率的な現代語の学習に繋がる可能性を、「越境する日本語」という枠組みで捉えるものである。

キーワード：ラ行音撥音化、鼻音性、日本語学習経験者、標準語

1. はじめに

日本語教育における撥音便とは、一般的に「死ぬ」「読む」「飛ぶ」に代表されるような動詞語尾のヌ・ム・ブがテ形またはタ形に下接してンになる場合を指す。本稿では、これを典型的撥音便と見なし、それ以外の音声変異によって一部の音がンとなる場合を撥音便の周辺の形式と位置づける。周辺の形式には、動詞に限らず、助動詞・助詞・代名詞等の品詞においても撥音化する現象が存在する。例えば、(a)「君んち」「嫌んなる」「そんで」や (b)「いざ行かん」「触れなば落ちん」「割れんばかりの拍手」等の様々な形式が含まれる¹。後述するラ行音撥音等も考え合わせると、現代日本語におけるンを伴う表現は実に種々雑多である。これらの表現の多くはほぼ話し言葉に限定され、くだけた言い方と見なされ、教育現場では殆ど取り上げら

* りゅう・しい、埼玉大学大学院人文社会科学部研究科准教授、日本語教育学

¹ 前者の (a) はくだけた言い方とされ、個別の語彙・表現として自然習得に任せるのが一般的である。これに対し、後者の (b) のような古典日本語の名残である表現は定型句や文型として指導される場合がある。

れてこなかった。参考書等においても体系的な提示が為されていない。これらの表現は、日々耳にするものでありながら、学習者は日常生活におけるインプットを頼りに学習するしかないのが現状である。しかし、自然習得のみでは限界があり、上級以上の学習者でも実生活において理解に支障をきたす場合がある。例えば、筆者はテレビドラマを見て、イジメに関する次の台詞が全く理解できなかった。

(1) 本当に遺書を使わせてやっかんな。(『家族ゲーム』)

こうした実体験を踏まえ、本稿では周地的形式の下位区分にあたる、ラ行音が撥音化する表現に焦点をあてる。

2. 本稿の研究目的と先行研究

学習者は、ラ行音の撥音化にはそもそも馴染みがない。なぜならば動詞の活用学習では、「入る」のような五段動詞の場合、語尾のルが促音化し、「入って」「入った」のようになることを初級段階から教わるからである。実生活で「ふざけんな」のようにルの撥音化形式を耳にし、戸惑いを感じる学習者は少なくなかろう。ましてルだけでなく、ラ行全般にわたって撥音化する場合もある。ラ行音の撥音化は、学習者にとって決して看過できないものである。筆者が来日以来、記録し続けてきた十数年分の学習メモにも、ラ行音撥音に関する箇所が多い。以下、図1にその一部を示す²。

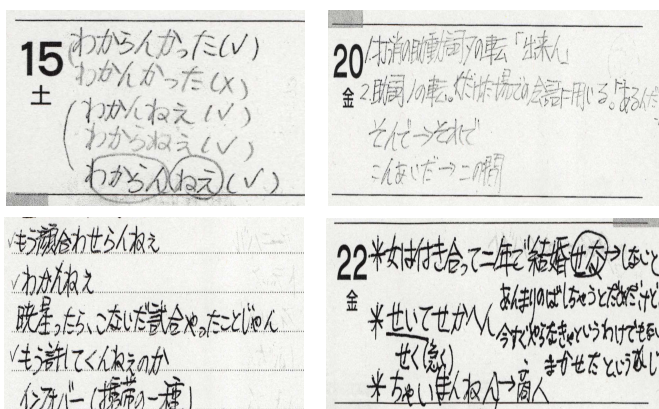


図1 学習メモ(2004)における撥音関連箇所

撥音化を含む音縮形に関する論考は少なくない(土岐1975、斉藤1991、崔1993、崔1995、中村他2003、小磯他2005、岡田2006、土岐2010)。最近では「信じらんない」のような不可能を表す音縮形の撥音化に特化し、動詞活用別と語彙別に見られる容認度(鶴岡2016)や、音声学的なピッチ動態・アクセント核の移動の有無といった視点からの検討も為されている(那須2015)。一部の方言に見られるラ行音の撥音化についての調査はあるが(室山1970、上野編1989、

² 大学、アルバイト先、職場等でのインプットだけでなく、TVや書籍類、広告や公共放送等あらゆる媒体を通してのインプットの中で、気になった表現と語彙を幅広く収集したものである。詳しくは劉(2015a、2016a)を参照されたい。

木川・久野 2012、江口 2018)、日本語教育を念頭に置いたものではない。日本語教育の分野では、五十島他 (2001) の調査により示されたように、撥音化表現は学習者にとって、聞き取りが困難な話し言葉の音変化のひとつである。この点は日本語教育関係者の共通認識であると言える。堀口 (1989) や峰岸 (1999) のような、日本語教育における音縮形指導の提案は早くから見られるものの、その内容は特定の学習レベルに依存するもので、断片的であると言わざるを得ない。

学習者にとっては、日常に使われる撥音便にどのような表現形式があるのかということが最大の関心事である。とりわけ、「なんで笑ってんの？」のような、標準語だけではなく、「昨日泣いてん」「食べんねん」「行きまんがな」のような、テレビで日々耳にする「準標準語」(劉 2016b) においても撥音便の周辺の形式が散見される。これらを独学で習得することは至難の業であろう³。斉藤 (1986) では、日本語教育に寄与する立場から、ラ行音とナ行音の撥音化に関する示唆的な考察が行われているが、標準語表現のみが対象であり、準標準語をも視野に入れる学習ニーズからすればなお検討の余地がある。また、学習者がこれらの撥音便の周辺の形式を自然習得するには限界がある。個々の表現形式を列挙して覚えさせるだけでは不十分で、一定のルール(制約)の提示が必要であると思われる。これらの表現形式を一括し、撥音化が起こる場合を示すことができれば、学習の効率を画期的に高めることができよう。そこで本稿では、まずラ行音撥音を対象とし、以下の3点を示すこととする。

(イ) ラ行音が撥音化する表現の全体像。

(ロ) 学習者の視点から見た、ラ行音に由来する撥音を学習する際の難点。

(ハ) 撥音化の要因を踏まえた上で、ラ行音に由来する撥音を体系的に把握する方法。

3. ラ行音の撥音化

3-1 ラ行音が撥音化する表現の全体像

以下、ラ行音撥音の全体像を示してゆく。日本語学習者の日本での実際の生活に直結するという本稿の出発点となった視点から、用例は主にテレビを中心としたマスコミメディアまたはそれに類する表現を取りあげた(ただし、適当な用例が見当たらない場合は、作例した)。

3-1-1 ラ由来の撥音

「分かんない」「変わんない」等、ラ由来の撥音は語尾のルで終わる五段動詞の未然形がほとんどを占める⁴。その後続表現は、「ない」およびその関連表現形式「なくても」「ないで」「ないと」「なくはない」「なさそう」「ねえ」「ねば」「なきゃ」が大半である。

³ 本稿では産出面より、理解面に重きを置いている。筆者が関西に滞在中に横浜弁「じゃん」に代表される東京方言の話し言葉を言えなくても卑下する必要はないと言われたことがある。また、関東で発表した際に、「関西弁なんか勉強する必要がある？」と聞かれたこともある。現代版の『浮世風呂』を見ているよう感もあるが、日本語母語話者とは異なり、具体的な表現を理解できないというモヤモヤ感が出てきた際に、それを解消してあげることが日本語教育の使命でもあると筆者は考える。

⁴ 「くだらない」のように「*くだんない」形が用いられない場合もある。一語化の問題もあるが、「くだらん」の使用頻度の高さも一因であると考えられる。

- (2) いやあたまんないな (『クレージージャーニー』)
- (3) 加藤って意外とつまんない脚 (『ホンマでっか!?TV』)
- (4) ポールダンスやんないの? (『月曜から夜ふかし』)
- (5) 全然上がんねえ (『世界の果てまでイッテQ』)
- (6) 絶対作んねえなアイツ (『世界の果てまでイッテQ』)
- (7) 飛行機でもぶつかんねえかな (『月曜から夜ふかし』)
- (8) 入んねーじゃねーかよ (『サンデージャポン』)
- (9) 四人やんないと決勝残れない (『水曜日のダウンタウン』)
- (10) 触んないでください (『世界の果てまでイッテQ』)
- (11) 来れんじゃん登んなくても (『世界の果てまでイッテQ』)
- (12) どこかわかんなくなっちゃって (『行列のできる法律相談所』)
- (13) 小判入んなくない「ボケテ (bokete)、ウェブサイト」
- (14) つまんなさそう
- (15) 気持ちよく入んねば
- (16) これを上回んなきゃいけないんでしょう (『カラオケバトル』)
- (17) これを背負って登んなきゃいけないんで (『クレージージャーニー』)
- (18) 若い人がやんなきゃいけないんじゃない (『月曜から夜ふかし』)
- (19) 命懸けて守んなきゃいけねえ (『行列のできる法律相談所』)

このほか、念押しの「な」も見受けられるが、撥音に後続するこれらの形式のすべてがナ行音で始まる表現であることを指摘することができる。また、ルで終わる五段動詞の未然形に加え、助詞「カラ」のラも撥音化する点が注目される。

- (20) のび太のように打ち首だかんな〜!! 「ボケテ (bokete)、ウェブサイト」

3-1-2 リ由来の撥音

リ由来の撥音については、語尾のルで終わる五段動詞の連用形のリに「なさい」が後続する場合がその典型例として挙げられる。

- (21) もう1回やんなさいよ (『アウトデラックス』)
- (22) 「いや」じゃなくて、謝んなさいよ (『笑ってはいけない』)
- (23) くりいむ有田 自宅に帰ると奥さんが「おかえんなさいー!!」 ホリケンが暴露 (Y!ニュースタイトル)
- (24) お気張んなさい

また、「なさい」の略と思われる「な」「なよ」が下接する、語尾のルで終わる五段動詞の連用形のリも撥音化する場合がある。

- (25) だからカワイイおばあちゃんになん⁵。(『月曜から夜ふかし』)

⁵ 「〜ル+ (禁止の) ナ」の撥音との同形を回避するため、数としては劣勢である。

(26) ホラホラ中に入んなよ！（『クレージージャーニー』）

一方、個別の語の用例としては「足んない」「あんがとう」等が挙げられる⁶。

このように、リが撥音化する場合、「ありがとう」がガ行音であること以外は、後続表現がいずれもナ行音で始まっている。

3-1-3 ル由来の撥音

ルに由来する撥音の後続表現はかなり多様である。ラ由来の撥音とリ由来の撥音と異なり、五段動詞以外の場合も多く見られる。

まず終助詞相当のノ（ノを伴う複合形を含む）が後続する場合、語尾のルが撥音化する傾向が強い。

(27) 飛べんの？（『偽装の夫婦』）

(28) キリンの睡眠時間って1日何時間だと思ってんの？（『櫻井・有吉 THE 夜会』）

(29) なめてんのか（『行列のできる法律相談所』）

(30) もし保君に話したら考えてくれんのか（『偽装の夫婦』）

(31) いつ出てくんのかな（『世界の果てまでイッテQ』）

(32) なんで笑わせんのよだから！（『世界の果てまでイッテQ』）

また、形式名詞の「の」に前置する動詞語尾のルも撥音化する。

(33) 焼き鳥食べんのやめなさいよ！（『ホンマでっか！？TV』）

(34) そこでも負けんのが怖かった（『水曜日のダウンタウン』）

(35) 懐かしがんのもここまでや（『探偵ナイトスクープ』）

そして、接続詞「のに」の前においても、語尾のルが撥音になる場合がある。

(36) こんなさけ出してんのに（『月曜から夜ふかし』）

(37) 本当だったら6ヶ月で終わってんのに（『水曜日のダウンタウン』）

このほか、禁止のナ（「なよ」「なや」）や詠嘆の「なあ」が後続する時も、語尾のルが撥音化する場合が多い。

(38) ふざけんな（『行列のできる法律相談所』）

(39) 仲代さんの世界に入ってくんな（『行列のできる法律相談所』）

(40) そんなに自分を責めんなよ（『行列のできる法律相談所』）

(41) 皆でメシ食う会合に来んなや！（『ホンマでっか！？TV』）

(42) このガキ調子乗ってんな（「ボケテ（bokete）、ウェブサイト」）

さらに、助動詞ダの関連表現形式（「だよ」「だろう」）や、語尾のルにザ行音で始まる表現（「じゃん」「じゃないか」「ぞ」）等が下接する場合も、撥音化する。

(43) 色々あんだよ（『世界の果てまでイッテQ』）

(44) みんなわかんだよ（『しゃべくり 007』）

⁶ 「仮名」の語源「かりな→かんな→かな」もリが撥音化の一例と見なすことができる。

- (45) 何してんだよ！（『世界の果てまでイッテ Q』）
- (46) 何やってんだよ（『偽装の夫婦』）
- (47) 絶対行けんだろ！（『世界の果てまでイッテ Q』）
- (48) 桐谷美玲主演・月9「スキコト」女子絶叫の山崎賢人「俺がいんだろ？」続きに視聴者注目。三兄弟の秘密も明らかに！？（Y!ニュースタイトル）
- (49) やめろつつってんだろ（『世界の果てまでイッテ Q』）
- (50) 来れんじゃん（登んなくても）（『世界の果てまでイッテ Q』）
- (51) いつも言ってんじゃん（『月曜から夜ふかし』）
- (52) 死んでんじゃないか（『行列のできる法律相談所』）
- (53) イケンじゃねえか（『マツコ&有吉 かりそめ天国』）
- (54) 女に決まってんじゃねーか（『世界の果てまでイッテ Q』）
- (55) いや、なめんじゃねえよ（『マツコ&有吉の怒り新党』）
- (56) 言い訳してんじゃねーよ（『マツコ&有吉の怒り新党』）
- (57) あんぞ（「ボケテ（bokete）、ウェブサイト」）

このように、ル由来の撥音の後続表現の最初の拍を確認すると、概ねナ行・ダ行⁷・ザ行で始まるものとまとめることができる。

一方、語尾のルが撥音化する表現は、近畿方言においてとりわけ顕著である。次節でも述べるように、撥音の後続表現としては、終助詞系の「で」「がな」「なあ」「ねん」「の」等が挙げられる。これらの後続表現の最初の拍はガ行・ダ行・ナ行で始まっている。

- (58) 女の子ぐっさー来んで（『マツコ&有吉の怒り新党』）
- (59) つぶれんで（CM「ヤフー」）
- (60) 琵琶湖の水、止めたんで！（『秘密のケンミン SHOW』）
- (61) 食べてんがな
- (62) 大当たりやなあ ええ事あんなあ（『秘密のケンミン SHOW』）
- (63) 岡村隆史“斉藤佑波尔シェおねだり騒動”を斬る「ハンカチって汚れんねん」（Y!ニュースタイトル）
- (64) 何回やんねん（『ホンマでっか！？TV』）
- (65) 何笑つとんねん（『ホンマでっか！？TV』）
- (66) なに撮ったはんの（『探偵ナイトスクープ』）
- (67) 歩いとんのん大概金ないの多いで（『月曜から夜ふかし』）

3-1-4 レ由来の撥音

レに由来する撥音の多くは本動詞以外において生じる。「られない」「て（い）られない」「か

⁷ 斉藤（1986：209）は「食べんだけ」「見んだけ」「すんだけ」「来んだけ」のようなダケが後続する場合を取り上げているが、許容の度合の確認が必要である。

もしれない」「てくれない」「てくれなきゃ」等がそれである⁸。撥音の後続音は、やはり「ない」「なきゃ」のようなナ行音で始まる表現である。

- (68) もうこれは逃げらんないですね (『クレージージャーニー』)
- (69) Come On! 太陽 負けらんない (『ミュージックステーション』)
- (70) 負けてらんない (『究極バトルゼウス』)
- (71) やっちゃったかしんない (『世界の果てまでイッテ Q』)
- (72) 悪いけど、助けてくんないか (『偽装の夫婦』)
- (73) 早くしてくんねえかな? (『クレージージャーニー』)
- (74) やってくんないからな (『しゃべくり 007』)
- (75) 周りもビビって止めてくんなくて (『水曜日のダウンタウン』)
- (76) 人間性入れてくんなかったら俺勝てねえな (『世界の果てまでイッテ Q』)
- (77) 先に謝してくんなきゃ許さないからねっ!! (「ボケテ (bokete)、ウェブサイト」)
- (78) やだやだ!動物園連れてってくんなきゃヤ〜ダ〜! (「ボケテ (bokete)、ウェブサイト」)

なお、語彙においてもレが撥音化するものは少なくない。例えば、「そんぐらい」「そんじゃ」「そんで」「どんだけ」「そんなら」「そんなり」が挙げられる。近畿方言の語彙としては、「ほんで」「ほんでも」「ほんなら」等が挙げられる⁹。これらはすべてレの箇所「ぐらい」「じゃ」「で」「でも」「だけ」「なら」「なり」等が下接してレが撥音化する複合語である。後続語の最初の音を行で見ると、ガ行・ザ行・ダ行・ナ行で始まっているものであることがわかる。

3-1-5 ロ由来の撥音

ロに由来する撥音化は、語彙においてのみ確認できる。標準語では「色んな (いろいろな→いろいろな→いろんな)」¹⁰、近畿方言では「おもんない (おもしろくない→おもしろない→おもろない→おもんない)」¹¹が挙げられる。

以上のように、ラ行全般が撥音化するということがあることは上述の通りであるが、ここでは特に、撥音化したすぐ後ろの音に注目したい。上述の例を確認すると、撥音に下接する諸表現の最初の音はナ行・ガ行・ザ行・ダ行に収まっていることがわかる。この点は後述する、学習者にラ行音が撥音化するルールにおいて重要となる。

3-2 学習経験者の視点から見たラ行音由来の撥音の学習難点

ラ行音が撥音化する全体像は前節で示した通りである。学習者にとっては、中でもルの撥音

⁸ 補助動詞が多い。動詞の未然形ラの撥音との棲み分けによるものと考えられる。

⁹ 近畿方言におけるサ行とハ行の交替で理解することができる (嫁さん/嫁はん、行きましよう/いきまひよ、そのとき/ほのとき、そうか/ほか、なさる/なはる)。

¹⁰ 標準語においてはイの脱落が一般的である。例えば、「持つてく」「やだ」等がそれである。

¹¹ 近畿方言においては、「てしまう」が「てまう」となるように、シの脱落が見られる。

形が足枷となる場合が多い。具体的にはルとヌの区別による意味の相違の判断が難しく、理解に支障をきたすことが想定される。

3-2-1【ル】か【ヌ】か（肯定か否定か）

日頃から「分からん」「変わらん」「知らん」「あかん」といった表現はよく耳にするため、打ち消しの助動詞ヌに由来するこの用法は、学習者にとってなじみ深い項目と見なすことができる。そのため、動詞または補助動詞の活用形に「ん」が下接する場合、ヌの用法が最初に想起され、そのため次のように、「ん。」または「んのだ。」となる場合は特に問題にならない。

(79) ヤブ医者ではだれも結婚してくれん。(『金曜ロード SHOW』) (ヌ)

(80) なんで分かってくれんのだ。(ヌ)

しかし、「ん」に「か」または「のか」等が後続する場合、個々の「ん」が打ち消しの助動詞ヌと語尾のルのどちらに由来するものかについての区別が学習者にとって難解である。特に未然形と連用形を同じ形で持つ一段動詞においてはより区別が難しくなる。ヌが多用される近畿方言においてはなおさらのことである。そもそも学習者が標準語なのか近畿方言なのか判別できない表現も多くある¹²。これらの表現における「ん」がルとヌのどちらを表しているのか、すなわち肯定か否定かの判別が一層難しくなるのである。

そこで、カバー率が高く、シンプルなルールを次のように示す。まず、カ系列の表現（か・かい・かな）が撥音に下接する場合、そのンは基本的にヌである。これに対して、カ系列の表現と撥音の間にノを挟む場合、そのンはルとヌのどちらかの可能性もある¹³。

(81) もし保君に話したら、考えてくれんのか (『偽装の夫婦』) (ル)

(82) 誰かわしに老眼鏡プレゼントしてくれんかな～ (「ボケテ (bokete)、ウェブサイト」)
(ヌ)

(83) 寝んのかい (ル／ヌ)

(84) 早よ寝んかい (ヌ)

(85) そんなことできんのかな¹⁴ (『クレージージャーニー』) (ル)

(86) そんなこともできんのか (ル／ヌ)

(87) ドリル ドリル ドリル せんの (ヌ) すんのか～い (ル) (『吉本新喜劇』)

さらに、終助詞「ねん」や助動詞「やろ (う)」のように近畿方言として有標の場合も、ルとヌについての判別も容易ではない。なぜならば、同じ表現形式で撥音の箇所が肯定と否定のどちらの意の解釈にもなり得るからである¹⁵。

¹² 打ち消し表現の歴史について、近藤ほか (2005 : 164–165) では次のように述べられている。「打消の助動詞は、現代では西の「ぬ」「ん」、東の「ない」という対立があるが、江戸語では現代よりも「ぬ」「ん」の用法が広がった。現代の東京語では「ます」の否定のマセンのときに「ん」が用いられるだけであるが、江戸語では動詞に付くこともあった。しかし、徐々に用法が狭まっていく。「ぬ」は上層の者に多く使われたようである。」

¹³ 共起する副詞や文脈、さらにアクセントの違いによってルとヌのどちらも表現として存在するが、後続音「の」の影響により、ルに由来する場合がかなり多い。コーパスによる検証については別稿に譲る。

¹⁴ 近畿表現における有標の打ち消し「～へん」「～ひん」は、学習者にとって理解面において特に問題にならないため、本稿では考察対象として除外した。

¹⁵ 同形回避が働いて、否定を表す場合、近畿方言の打ち消し表現として有標の「ひん」「へん」が用いられることが多

(88) 飲んでパーンやってブツと出す できんの (『世界の果てまでイッテ Q』) (ル/ヌ)

(89) 食べんねん (ル/ヌ)

実際、筆者の手元には「できんねん」が肯定と否定のどちらを表しているのかについてのメモが残っている (図2)。

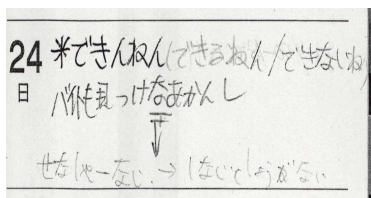


図2 メモ (2004) 「できんねん」

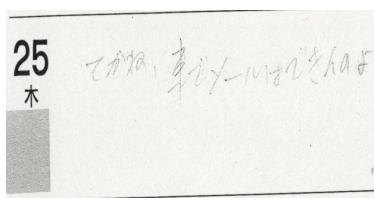


図3 メモ (2004) 「てかね、車でメールはできんのよ」

このような場合、副詞等の共起表現 (文脈) が、ルかヌかを判別する手がかりになり得る場合があることを学習者に提示する必要がある。

(90) てかね、車でメールはできんのよ (学習メモ 2004、図3) (ヌ)

(91) こういうのだけは当てんねん (『快傑えみちゃんねる』) (ル)

(92) 会ったら時計くれんねんって? (『中居正広の身になる図書館』) (ル)

(93) あんまりモチんやろ? (『快傑えみちゃんねる』) (ヌ)

(94) ほんまはモチんにやろ (ル)

(95) 暑すぎて寝られんねん。 (ヌ)

(96) どこでも寝られんねん (ル)

3-2-2【テン】を含む表現形式

前節のル・ヌに関連して、学習者にとって難解な表現として「テン」を含む諸形式が挙げられる。標準語の場合、「ている」の「い」が脱落した「てる」のルが撥音化する形式のみが見られる¹⁶。これに対し、近畿方言には「てん」を含む表現形式が多く、具体的には、「ている」のルが撥音化である「てん」、過去の助動詞「てん」、打ち消しの助動詞を含む「てんと」、「～してくれないか」という意を表す「てんか」等が挙げられる。標準語のみならず、近畿方言に「てる」の音縮形「てん」の形式が複数あるため、体系を示すが必要になる。その際、学習経験者の目から見た表1のような体系が理解の助けになると考えられよう。

表1 「てん」を伴う現代日本語の諸表現

	形式	意味	用例
標準	～てんの	～て (い) るの	(97) 一体何考えてんの? 新婚なのに! (『偽装の夫婦』) (98) 何言ってんの? (『世界の果てまでイッテ Q』)

いのは事実である。つまり、ンがヌではなく、ルを表す場合が優勢である。その場合、学習者に「なぜルが撥音になるか」を理解してもらうためには、3-3-1で提示する後続モーラの特徴をもって説明することが必要であろう。

¹⁶ 「動けてんだよ」は個別語彙として扱う。

語			(99) 人の話聞いてんのか (『行列のできる法律相談所』)
準 標 準 語	～てん～	～て (い) る	(100) 今年からキテンちゃうか俺は (『月曜から夜ふかし』) (101) はよ行け言うてんねん (『ホンマでっか!?TV』) (102) 和やかに～にしゃべってんねんけど (『快傑えみちちゃんねる』) (103) もろうて全然違う子にあげてんねん (『快傑えみちちゃんねる』)
	～てん	～た	(104) 俺のや！買ってん (『ニンゲン観察バラエティ モニタリング』) (105) 手を合わせてん！一緒に (『快傑えみちちゃんねる』) (106) 帰りやってん (『月曜から夜ふかし』) (107) 小4まで焼いててんな (『探偵ナイトスクープ』) (108) 本当に勝手に入ってん (『クレイジージャーニー』) (109) 一時凄いスターになってんけど (『クレイジージャーニー』) (110) 病院ごっこが多かってん (『探偵ナイトスクープ』)
	～てんと	～ていないと～	(111) 待ってんとあかん (岡本・氏原 2006 : 44)
		～ていないで～	(112) 待ってんと行き (岡本・氏原 2006 : 44)
	～てんか	～ているのか	(113) あんた寝てんか
		～てくれないか	(114) わろてんか (平成 29 年秋 NHK ドラマ) (115) また来てんか

3-3 周辺の撥音便を習得するための提案ーラ行由来の撥音を中心にー

撥音化する要因とともに¹⁷、「ん」になる（なりやすい）場合について学習者に傾向を提示しておく必要もあろう。ただし、本稿では専門的な音声学音韻論の説明は可能な限り避けて、学習経験者の視点から学習者にとってカバー率の高いシンプルなルールを提示することを主たる目的とする。

3-3-1 後続モーラの特徴

3-1 節においてはラ行音の撥音化の全体像を示したが、ここでは撥音の後続音に注目したい。すると、後続音のほとんどはナ行・ガ行・ザ行・ダ行に収めることができることに気づく。ナ行音は勿論のこと、ガ行音も、ガ行鼻濁音が存在し、鼻音性を有する。また、ザ行音とダ行音

¹⁷ ここでは、ラ行音が後続音に依存する傾向が強いことを指す。一方、マ行音やナ行音の撥音便については、月本編 (2015 : 45-48、肥爪執筆) の指摘通り、現代日本語の撥音便は後続音に依存する場合とそうでない場合とに分けられるため、学習者へは別の提示の仕方が必要となる。この点については別稿に譲る。

についても、通時的に前鼻音性を有していたとされ¹⁸、鼻音性を有するものの名残と見なすことができる。つまり、ラ行音が撥音化する表現形式において撥音に後続する音の多くは鼻音性を有するということになる。そこで次のようなルールが提案できる¹⁹。

ラ行音に、最初の拍がナ行・ガ行・ザ行・ダ行で始まる表現が後続する場合、そのラ行音が撥音化する傾向がある。(ただし、これらの鼻音性を有する拍が後続するからといって、そのラ行音が必ず撥音化するというわけではない。)

このような提示の仕方により、後述する近畿方言の撥音形式を含む体系的な理解ができるのみならず、学習者自身による応用も可能であり、効率的な学習が期待できる。例えば、日本人なら誰しもが知っている名台詞「同情するなら金をくれ！」(『家なき子』)を上にしたルールを照らし合わせれば、学習者が「同情すんなら金をくれ！」(ボケテ (bokete)、ウェブサイト)にもなり得ることを自ら推測できよう。なぜならば、「する」のルに後続する「なら」がナ行音から始まる表現だからである。

3-3-2 撥音化か促音化か

このように、ラ行音は後続音の影響を受けて音変化する場合がある。撥音化のみならず、促音化する場合もある²⁰。ラ行音の中でも語尾のルが撥音と促音のどちらになるかの判断は一番の難点であろう。

(116) 本当に遺書を使わせてやっかんな。(用例1再掲)

学習経験者の視点からすると、ルに「か」「から」「けど」といったカ行音で始まる後続音が下接する場合、ルが促音になりうるというルールを上「ルが撥音化する場合の後続モーラの特徴ルール」と合わせて学習者に提示しておく重要性を感じる²¹。

(117) どうせ俺たち死んでっから²² (『好きか嫌い言う時間』)

(118) いい仕事紹介してやっから (『ぐるナイ おもしろ荘』)

(119) 食わせる前に散歩させっからよお (『世界の果てまでイッテ Q』)

(120) 口が開いてっから (『偽装の夫婦』)

(121) 逃げて捕まったらどうなっか知ってっか? (『ぐるナイ おもしろ荘』)

(122) こんな T シャツ着てられっか (『行列のできる法律相談所』)

(123) 絶対ふられそうな気がすっけど (『偽装の夫婦』)

¹⁸ 上代から中世末まで前鼻音を伴ったと推定される。

¹⁹ 日本語教育の現場では、カ行サ行タ行バ行の前に促音が現れると説明がよく提示されるのに対して、撥音についてこうした説明に触れられることが全くない。促音に比べて撥音のほうが複雑であるとはいえ、このような扱い方はかなり不審であると思われる。本稿は学習経験者がこのように提示してくれていたらもっと分かりやすかったと感じる立場から、ラ行音撥音に関する新しい提示の仕方を試みたものである。

²⁰ ルが後続音により促音化にも撥音化にもなり得るという両面性を持つ。例えば、古典語(去りぬ→さんぬ/取りて→とって)、現代語(終わった/いつ終わんだ)、方言(関東: あんぞ/関西: あっぞ)等が具体例として挙げられる。

²¹ 斉藤(1986: 211)では「食べると→食べつと」「見ると→見つと」「すると→すつと」「来ると→来つと」の4例が挙げられているが、詳細な検討の余地があると思われる。

²² 劉(2016)ではこの表現についてアンケート調査を行った上で、この表現はニアネイティブレベルを目指す学習者には提示する必要のある項目の1つであると主張している。

3-3-3 ラ行音（動詞辞書形語尾のル）に関連して「標準語」を考える

このような、後続音によって撥音と促音のどちらにもなり得る現象は、語尾のルに限ったことではない。近畿方言の助動詞に含まれる「す」についても同様である（「だす・どす・です」「ます」「おます」）。例えば、「マス」または「デス」に「がな・なあ・ねん・の（ん）」等の鼻音性を有する音で始まる表現が下接する場合、「ス」が撥音化する。一方、カ行音・サ行音で始まる音が後続する場合、促音化が起こる²³（表2）。

表2 「～ス」の撥音化と促音化

～ス	撥音化	～がな	(124) 湿ってまんがな（『探偵ナイトスクープ』） (125) そういふのは関西の人ぐらいでおまんがな（『名探偵コナン』） (126) 関西人にしか見えないっちゅわけでまんがな（『名探偵コナン』） (127) でんがな まんがな（『嵐にしがれ』）
		～なあ	(128) おい、お兄さんカワイイ彼女連れてまんなあ（『月曜から夜ふかし』）
		～ねん	(129) 浅田真央さんのファンでんねん（『月曜から夜ふかし』） (130) ちやいまんねん（学習メモ 2004） (131) 逃げまんねん（商品名）
		～の（ん）	(132) 手、入れまんの（『探偵ナイトスクープ』）
	促音化	～か	(133) ホンマでっか！？TV（フジテレビ番組名）
		～さかい	(134) 茱耶が向かいまっさかい（『エビス堂金』）
		～え	(135) そりゃコンビニにも入りまっせ（『水曜日のダウンタウン』） (136) 恥かかさんように頼んまっせ（『月曜から夜ふかし』）

4. まとめと今後の課題

本稿の概要は以下の通りである。現代日本語には多種多様な撥音を伴う表現が存在する。日々耳にするこれらの表現の多くはくだけた話し言葉とされるため、日本語教育現場ではほとんど取り上げられてこなかった。本稿では、撥音便の周辺の形式の1つ、ラ行音に由来する撥音の全体像を示した上で、撥音化の要因を踏まえながらも、音声学音韻論の専門用語を可能な限り避け、学習経験者の視点からこれらの表現を学習する際にカバー率の高いシンプルなルールを提案した。

本稿は日本語学と日本語教育との接点からラ行音の撥音化を考察したものであり、日本語学習者の視点から見た日本語の一面と位置づけることもできる。また、標準語に限らず、近畿方

²³ 母音・半母音の場合はさらに音融合が起こる。例えば、「ます+え→まっせ」「です+え→でっせ」「ます+やろ→まっしゃろ」「です+やろ→でっしゃろ」「ます+わ→まっさ」がそれである。

言におけるラ行音の撥音化をも視野に入れた言及を行った。ザ行・ダ行に関しては、現代語のみならず、通時的観点も取り入れた。このように、日本語教育を考える際にも、様々な意味での「越境する日本語」という枠組みの中で考えてゆく必要性和意義を感じずにはいられないのである。

今後は、ラ行音以外の音に由来する撥音便の周地的形式についての言及を課題とし、撥音便の周地的形式を体系的に把握する方法の提示につなげたい。運用（産出）はひとまずおき、出現しやすい傾向を示すことにより、これらの表現形式を理解するための一助となることを目指す。

参考文献

- 浅川哲也・竹部歩美（2014）『歴史的変化から理解する現代日本語文法』おうふう
- 五十島優・酒井たか子・平形裕紀子（2001）「学習者にとって聞き取りが困難な話し言葉の音変化とは－撥音化・拗音化の場合－」『日本語教育方法研究会誌』8-2、pp.26-27、日本語教育方法研究会
- 上野善道編（1989）『日本方言音韻総覧』小学館
- 江口正（2018）「大分方言における動詞終止形の撥音化とその意味するところ」『日本語の研究』14-2、pp.34-50、日本語学会
- 榎木久薫（2008）「連声と促音・撥音」『古典語研究の焦点』、pp.739-754、武蔵野書院
- 榎木久薫（2010）「撥音の類別－試論－」『地域学論集 鳥取大学地域学部紀要』7-2、pp.353-358、鳥取大学
- 榎木久薫（2016）「通時的変化として見たサ行子音とザ行子音」『地域学論集 鳥取大学地域学部紀要』12-3、pp.211-219、鳥取大学
- 岡田祥平（2006）「「音縮形」再考」『阪大日本語研究』18、pp.49-78、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 岡本牧子・氏原庸子（2006）『（新訂版）聞いておぼえる関西（大阪）弁入門』ひつじ書房
- 沖森卓也・木村一編著（2017）『日本語の音』朝倉書店
- 加藤重広・安藤智子（2016）『基礎から学ぶ 音声学講義』研究社
- 木川行央・久野マリ子（2012）「神奈川県小田原市方言におけるラ行音の撥音化」『Scientific approaches to language』11、pp.89-101、神田外語大学
- 木田章義（2013）『国語史を学ぶ人のために』世界思想社
- 小林賢次（1994）「「（言わ）んばかり」考－国語辞書類の意味記述をめぐる－」『日本語研究』14、pp. 109-116、首都大学東京
- 小林賢次（1995）「「（言わ）んばかり」考－慣用表現の成立と展開－」『日本語研究』15、pp.194-204、首都大学東京
- 小松英雄（2001）『日本語の歴史－青信号はなぜアオなのか－』笠間書院
- 小柳智一（2017）「文法変化と多義語－意味の多層化をめぐる－」『日本語学』37-2、pp.4-14、

明治書院

- 小磯花絵・間瀬洋子・前川喜久雄 (2005) 「助詞の撥音化現象－『日本語話し言葉コーパス』を用いた音声転訛現象の分析－」『言語・音声理解と対話処理研究会』43、pp.7-12、人工知能学会
- 近藤泰弘・月本雅幸・杉浦克己編著 (2005) 『新訂日本語の歴史』一般財団法人放送大学教育振興会
- 崔光祐 (1993) 「日本語の話し言葉の音声変換」『東北大学言語学論集』2、pp.33-44、東北大学言語学研究会
- 崔光祐 (1995) 「日本語の話し言葉における音声変化の音韻論的分類」『東北大学言語学論集』4、pp.107-119、東北大学言語学研究会
- 斉藤純男 (1986) 「話し言葉におけるラ行音およびナ行音のモーラ音素化」『日本語教育』60、pp.205-220、日本語教育学会
- 斉藤純男 (1991) 「現代日本語における縮約形の定義と分類」『東北大学日本語教育研究論集』6、pp.89-97、東北大学教養部日本語研修コース
- 月本雅幸編 (2015) 『日本語概説』、一般財団法人放送大学教育振興会
- 鶴岡里美 (2016) 「「ラレナイ」の撥音化の容認に関わる要因－不可能用法と受身否定用法の比較－」『日本語学会 2016 年度秋季大会予稿集』、pp.1-8、日本語学会
- 土岐哲 (1975) 「教養番組に現れた音縮形」『日本語教育』28、pp.55-66、日本語教育学会
- 土岐哲 (2002) 「日本語音声の縮訳とリズム形式」玉村文郎編『日本語学と言語学』、pp.55-65、明治書院
- 土岐哲 (2010) 『日本語教育からの音声研究』(シリーズ言語学と言語教育 20)、ひつじ書房
- 中村フサ子・小泉美礼・樽田ミエ子 (2003) 「テレビドラマの会話に見られる縮約形の調査・分析」『東海大学紀要 留学生教育センター』23、pp.85-100、東海大学
- 那須昭夫 (2015) 「音縮音声における二種類の撥音－ピッチ動態の比較－」『文藝言語研究 (言語篇)』68、pp.97-120、筑波大学
- 浜田敦 (1984) 『日本語の史的研究』臨川書店
- 肥爪周二 (2003) 「清濁分化と促音・撥音」『国語学』54-2、pp.97-108、日本語学会
- 肥爪周二 (2008) 「撥音史素描」『訓点語と訓点資料』120、pp.12-27、訓点語学会
- 肥爪周二 (2015a) 「2 現代日本語の音韻」月本雅幸編『日本語概説』、pp.24-37、一般財団法人放送大学教育振興会
- 肥爪周二 (2015b) 「3 日本語の音韻の変遷」月本雅幸編『日本語概説』、pp.38-50、一般財団法人放送大学教育振興会
- 肥爪周二 (2016) 「「ひいやり」「ふうわり」から「ひんやり」「ふんわり」へ－撥音史からの検討－」『近代語研究』19、pp.35-55、近代語学会
- 福島直恭 (2002) 『〈あぶない ai〉が〈あぶねえ e:〉にかわる時－日本語の変化の過程と定着－』笠間書院

- 彭飛 (1993) 『外国人留学生から見た大阪ことばの特徴』 和泉書院
- 堀口純子 (1989) 「話しことばにおける音縮形と日本語教育への応用」『文藝言語研究 (言語篇)』
15、pp.99-121、筑波大学
- 馬淵和夫 (1994) 『国語音韻論』 (第 8 版)、笠間書院 (初版 1971)
- 峰岸玲子 (1999) 「日本語学習者への音縮形指導のめやすー日本人による評価と使用率をふまえてー」『日本語教育』 102、pp.30-39、日本語教育学会
- 室山敏昭 (1970) 「鳥取県東伯郡羽合町方言のラ行音節の促音化・撥音化現象について」『国語国文』 39-9、pp.39-60、中央図書出版社
- 柳田征司 (2014) 『日本語の歴史 〈5 上〉 音便の千年紀』 武蔵野書院
- 柳田征司 (2015) 『日本語の歴史 〈5 下〉 音便の千年紀』 武蔵野書院
- 山口謠司 (2010) 『んー日本語最後の謎に挑むー』 新潮社
- 吉田永弘 (2014) 「古代語と現代語のあいだー転換期の中世語文法ー」『日本語学』33-1、pp.72-84、
明治書院
- 劉志偉 (2015a) 「学習者から見た文法シラバス」庵功雄・山内博之編『データに基づく文法シラバス』、pp.147-165、くろしお出版
- 劉志偉 (2015b) 「通時論的観点を部分的に取り入れた文法指導の試みー旧派テニヲハ論書における「簡」(つつ) 項目の記述に触発されてー」『武蔵野大学日本文学研究所紀要』第 2 号、
pp.19-36、武蔵野大学日本文学研究所
- 劉志偉 (2016a) 「日本語学習者から見た語彙シラバス」森篤嗣編『ニーズを踏まえた語彙シラバス』、pp.95-114、くろしお出版
- 劉志偉 (2016b) 「学習者の視点から見た「標準標準語」文法項目について」『武蔵野大学日本文学研究所紀要』 3、pp.53-69、武蔵野大学日本文学研究所
- 劉志偉 (2017) 「日本語文法の史的研究と日本語教育との接点ー関西方言のウ音便と話し言葉におけるイ形容詞のエ段長音を例にー」『武蔵野大学日本文学研究所紀要』 4、pp.65-74、武蔵野大学日本文学研究所

付記

本研究は JSPS 科研費 JP16K02818 の助成を受けたものである (基盤研究 C「中国語話者から見たニア・ネイティブレベルを目指すための語彙に関する総合的研究」)。なお、論文執筆にあたって、森篤嗣先生 (京都外国語大学)、山村仁朗氏 (島根県立大学短期大学部)、小口悠紀子氏 (首都大学東京) より貴重なコメントを賜った。また、井原英恵氏、中嶋徹氏にもご協力頂いた。ここに記して感謝を申し上げる。